

# きれいごとを諦めない

～コロナの時代を生きるヒント～

エッセイスト、タレントの小島慶子さんを講師に迎え、開催した講演会「きれいごとを諦めない～コロナの時代を生きるヒント～」。今年度は初めてオンラインで配信しました(11月26日～12月3日配信、11月29日はパレアで録画視聴会)。視聴者は延べ約580人。先行きの見えないコロナの時代に自分らしくどう生きるのか、お話しいただきました。

世界各国が新型コロナウイルスへの取り組みを進めるなか、小島慶子さんは、国連事務総長アントニオ・グテレス氏の「コロナ対策にはジェンダー平等の視点が大事」という言葉に強く共感したと言います。「看護師など、コロナ禍に必要な不可欠なケアワークの多くを女性が担っています。しかし古くからの男性が稼ぎ主という固定観念から、待遇がリスクに見合っていないことも珍しくありません。また経済状況の悪化により、非正規雇用の女性たちが真っ先に解雇や雇止めを追い込まれ、従来からの男女格差がコロナ禍の今、深刻な影響を及ぼしている」と問題視されています。小島さ

「コロナ禍、無力に思うことも多くあるかもしれませんが、ちよつとした親切やきれいごとを諦めない心掛けは、決して無駄にならないと確信しています。その方向を変えていきます。そう信じて、日々を過ごしていきます」と結びました。



性がない市町村もあり、今後、差が広がってくるのではないかなど、講座を通してそれぞれの立場で防災について考えるきっかけになったようです。参加者は今後も、さらに知識や理解を深め、講師として県内各地で活動していく予定です。



講師 小島 慶子氏  
(エッセイスト、タレント、東京大学大学院情報学環客員研究員)  
1972年オーストラリア生まれ。学習院大学法学部政治学科卒業後、1995年TBS入社。アナウンサーとしてテレビ、ラジオに出演。2010年退社後は、各種メディアに出演のほか、執筆、講演活動を精力的に行っている。著書に「解網」「るるらいり」小説「ホライズン」ほか多数。

んはこれらの課題を示し、「これを機に、今こそ男女格差を見直すことが必要です」と強調します。「このような働きかけをする」と、「そんなの無理、きれいごとだよ」と言う人がいますが、冷笑主義は何も生みません。きれいごと上等ですと小島さん。「これまでも長い歴史のなかで、差別や戦争によって、たくさんの方が命を落としてきました。それでも人類が生き延びているのは、きれいごとを諦めずに権利を獲得してきた人たちがいたから」と、理想を持って行動を起していくことの大切さを訴えました。

## 男女共同参画センター自主事業 災害に強い地域づくり ～男女共同参画の視点による防災講師養成講座～

「災害に強い地域づくり」男女共同参画の視点による防災講師養成講座を8月29日、オンラインで開催しました。当日は防災士や自治会長、市町村議員など、地域防災をけん引していく17人が参加しました。前半は竹内裕希子(熊本大学大学院准教授と当館の藤井有貴子館長による講義を実施。熊本地震を男女共同参画の視点から振り返り、避難所の課題や今後の対策、性暴力防止の啓発などについて伝えました。後半は参加者自身が防災のワークショップを体験。浅野幸子(減災と男女共同参画研修推進センター共同代表を講師に、避難所での困りごとを妊婦、障害者、高齢者など多様な立場から考えました。参加者は「学んだ視点を地域に根付かせるためにも、まずは民生委員の研修会で講座の報告をしたい」「防災計画会議へ女性が参画することが重要だと再認識しました。しかし県内では声を上げる女性がいらない市町村もあり、今後、差が広がってくるのではないかなど、講座を通してそれぞれの立場で防災について考えるきっかけになったようです。参加者は今後も、さらに知識や理解を深め、講師として県内各地で活動していく予定です。」

## 特定非営利活動法人 全国女性会館協議会 第64回 全国大会in熊本

# 「連携から連帯へ、今こそジェンダー平等へのムーブメントを」

くまもと県民交流館パレアで「特定非営利活動法人 全国女性会館協議会第64回全国大会in熊本」を11月25日、開催しました(主催:特定非営利活動法人 全国女性会館協議会、くまもと県民交流館管理運営共同企業体・共催:熊本県)。新型コロナウイルスの感染拡大の影響により、大会初のオンライン開催となった今年度は、災害やコロナ禍における男女共同参画推進をテーマにした基調講演や分科会が行われ、142人が参加しました。



開会式で、開催県として挨拶する  
浦島郁夫知事

その後、第14回事業企画大賞表彰式が行われ、DV撲滅という難しいテーマをダンスで若い世代に浸透しよう」と伝えました。

午後は、「女性の政治参画推進」新しい時代の男女共同参画推進事業「災害多発時代における男女共同参画センターの役割」の3テーマに分かれて、分科会を実施。

一人一人の意識が「連帯」への大きな一歩に  
特に災害多発時代における「は、東日本大震災や熊本地震だけでなく、数々の自然災害が起こっている中、多くの会館の関心を集めたテーマの一つ



大会最後は、全参加団体が手で心を作り、来年の開催地である秋田県にバトンをつなぎました



初の試み「オンライン」全国大会  
開会式や調査報告などは、パレアからYouTubeで生配信。分科会はWEB会議アプリZoomを使用し、互いの顔を見ながら交流しました

明日を切り開くネットワーク  
熊本から全国に発信したい  
全国各地の男女共同参画センターや女性センターなどが互いに情報見交換する機会として、毎年開かれている全国大会。今年度は、熊本地震の経験を踏まえ、「連携から連帯へ、今こそジェンダー平等へのムーブメントを」をテーマに、初のオンラインで実施しました。

開会式では、当館長の藤井有貴子さんが熊本地震の経験を通して、平時における男女共同参画の課題は災害時に増幅され、復興過程においても特に社会的弱者とされる人々の暮らしに大きな影を落とすという課題を実感しました。次の世代へ同じ課題を残さないため、各センターが自覚を持ち、取り組みを加速することが大切。力を合わせ、男女共同参画を推し進めるムーブメントを起こしましょう」と伝えました。

分科会とグループセッションの様子  
させた、静岡市女性会館が大賞を受賞し、その事業内容を動画で紹介しました。  
午前の部の最後は、全国女性会館協議会代表理事の納米恵美子さんによる、コロナ禍における各センターの対応と課題をまとめた調査報告。通常の運営が難しい中で、オンラインを活用して事業実施、継続がされていたことや、コロナ禍が女性に及ぼす影響など、ウイズコロナ時代の会館運営の現状と今後の課題を共有しました。